

第2学年「みがく」学習活動案

授業者 足立 愛美

2月20日（金） 2階C室 9:00～9:40

1 活動名 食をみつめて ～つかう・なくすの旅～

2 活動について

2年生は「旅する学び -リアルな手ざわり-」をテーマに、子どもたちが4つの旅（グループ）に分かれて探究的な学びに取り組んできた。このうち「つかう・なくすの旅」は2年生 16名と授業者（栄養教諭）が活動している。旅する学びの詳細は、2学年部会の頁をご覧ください。

1学期のはじめ、どのようなことに取り組みたいかをたずねると「どくだみでお茶を作りたい。校庭にはえてるよ。」「ゴーヤを育てて、その種を植えたらまたゴーヤができるんじゃない?」「土を作ってトマトを育ててケチャップ作り。へたはまた土になるかも!」などと食や、食と自然のつながりに目を向けた声があった。そうした声のもと、どくだみを干してお茶を作ったり、活動後の食材を段ボールコンポストに入れてその様子確かめたりしてきた。学年の行事とも関わりながら子どもたちの興味は広がり、9月の流しそうめんでは、大学構内で拾った栗を練り込んだ「栗入りそうめん」や、玉ねぎの皮を煮出した汁で色付けした「玉ねぎ色そうめん」を作ってコースに流した。初めてのそうめん作りでは粉に水を入れ過ぎてしまったが、ゆるくなった生地を指に取り、親指と人差し指の間に生地が伸びるのを見つけていた。別の日には、調理過程で生じた小さな砂糖粒や机にこぼれた炒り米を「これ、食べてみたい!」と目を輝かせていた。やってみる過程で様々なことを感じ、気づきを得る子どもたちの姿を見て、授業者も計画通りに料理を完成させることよりも活動する過程に次第に重点を置くようになり、予想のつかない旅を子どもたちと楽しむようになった。

旅の中で、子どもたちには食べ物の手ざわりや味、その変化をからだで感じてほしいという思いがある。身近な食べ物や季節のものを使った簡単な調理を行い、その食べ物を素朴に味わえるような活動を展開している。やってみる過程での心地よい感覚も、時に心地よくない感覚も、旅の中での出会いだにとらえている。子どもたちと相談しながら活動を進めるため、本時にどのような活動を行うのか想定が難しいが、3学期のはじめ、秋に仕込んだ麦みその様子確かめて「これでみそ汁を作りたい」「みそラーメンがいいな」という声が出ている。子どもたちのそれぞれの思いや経験、その瞬間のひらめきが絡み合って、そこでうまれる味わいを楽しむ時間としたい。

3 学習活動計画（13時間目／全18時間）

- | | | |
|-----|--------------------|------------|
| 第1次 | 3学期にやってみたいことを聞き合おう | …2時間 |
| 第2次 | やってみよう、活動をふり返ろう | …本時11／14時間 |
| 第3次 | 1年間の旅をふり返ろう | …2時間 |

4 本時の学習について

（1）本時のねらい

・食材の準備、簡単な調理や試食などの活動の過程で、自分や友達の感じたことを大切にしながら、次の活動へつなげる。

（2）予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1. 活動の流れを確認する。	・安全上の注意点を伝える。
2. 実際にやってみる。	・子どものやってみたい気持ちを尊重する。 ・活動中の子どもの姿やことばに着目する。
3. 味わいや感じたことをふり返り、聞き合う。	